

# 第一章活用事例

小学校一・二年生版「心あかるく  
「ひみつの朝」 高丸 もと子

p.24  
～  
p.25

## 中心資料

「きつねとぶどう」(小学校 道徳の指導資料  
第二集 第二学年 昭和三十九年 文部省)

### 【主題名】 家族への敬愛

第一学年及び第二学年 4・③

「父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。」

### 【ねらい】 父母、祖父母を敬愛しようとする心情を育てる。

《ねらいとする道徳的価値》について《一・二年生の時期の児童は、家族を大切に思っているものの、家族がいることや家族にしてみらうことを当然のこととして受け止めている様子が見られます。父母や祖父母が子供を大切に思う気持ちを知ることから敬愛の念を育て、積極的に家族と関わり、家族の一員として役に立つ喜びを実感できるように指導していかなくてはなりません。》

## 導入



「詩『ひみつの朝』をみんなで音読しましょう。」

- 「ひみつの朝」を音読させ、「もうすぐみんながおきてくる」の部分に着目させて、「みんな」とは誰のことなのか考え、どのような気持ちで「みんながおきてくる」のを待っているのかを考えさせます。
- 家族とはどのようなものかを考えさせましょう。

○教師が「きつねとぶどう」を読み聞かせます。



「母ぎつねがえさをとりに行った時、子ぎつねはどのような気持ちだったでしょうか。」

○母ぎつねのことを思う子ぎつねに共感させ、子ぎつねが感じたことや考えたことを出させましょう。



「『コーンあぶない。早く逃げなさい。』と言った時、母ぎつねはどのような気持ちだったでしょうか。」

○子ぎつねのことを守ろうとする母ぎつねに共感させ、母ぎつねが感じたことや考えたことを出させましょう。

## 展開

### 中心発問



「空を見上げて母ぎつねを思う時の子ぎつねはどのような気持ちだったでしょうか。」

○母ぎつねを思う子ぎつねに共感させ、子ぎつねが感じたことや考えたことを出させましょう。

《評価》 子ぎつねに共感し、家族を思う心情を深めることができたか。



「家族がいてよかったと思っただけですか。それ以外の時はどうですか。」

○話し合ったことを基に、家族への思いを振り返らせます。

○教師が、家族がいてよかったと思っただけの経験や、家族のためにどのようなことをしているかなどを話し、本時の学習をまとめましょう。

## 終末

○「心あかるく」の<sup>p.108</sup>、<sup>p.109</sup>を書き込ませます。

## 板書例

【資料の特徴】 中心資料の「きつねとぶどう」は、自分の危険を顧みず、子ぎつねを猟師から守ろうとする母ぎつねの姿と、数年後、母が自分を守ってくれたことに気付いた子ぎつねが母を思う姿が鮮明に描かれています。「ひみつの朝」は、日常の小さな光景の中にある、家族のつながりや温かさ、家族の役に立つ喜びなどを感じさせることができる資料です。

家ぞく

- やさしい。
- 話を聞いてくれる。
- こまるときにたすけてくれる。
- たいせつ。

きつねとぶどう

母ぎつねがえさをとりにいった時。

穴の中、一匹で待つ子ぎつねの挿絵

- お母さんに早くかえってきてほしいな。
- おなかがすいたよ。
- いつもお母さんばかりにとりに行かせてわるいな。



「コーンあぶない。早く逃げなさい。」と言った時。

- 何とかして子供をまもりたい。
- じぶんはどうなっても、子供をまもりたい。
- なんとかして生きのびてほしい。

母ぎつねが叫び、子ぎつねが逃げていく挿絵

お母さんを思って空を見上げた時。

空を見上げ、母ぎつねを思う子ぎつねの挿絵

- お母さん、いまだここにいるの。
- お母さんがぶどうをもってきてくれたんだ。
- お母さんのおかげでここまで大きくなりました。

家ぞくがいてよかったと思う時は、どのような時だろう。

- お母さんにかんびようしてもらった時。
- お父さんとキャッチボールをした時。
- おばあちゃんの家へ行った時。
- 自分がやったことをほめてもらった時。



家ぞくのためにしていること、したいことを書きよう。

《評価》 家族と自分との関わりについて考えを深め、家族を敬愛しようとする心情を育てることができたか。